

---

---

# NEWSLETTER

一般社団法人日本保健物理学会

No. 64 September, 2012

---

## 目次

企画委員会報告 .....	2
平成 24 年度第 1 回企画委員会 議事録.....	2
編集委員会報告 .....	2
平成 24 年度第 1 回編集委員会 議事録.....	2
放射線防護標準化委員会報告.....	4
第 11 回放射線防護標準化委員会並びに第 1 回専門部会.....	4
第 36 回幹事会 .....	4
第 37 回幹事会 .....	5
広報担当からの報告.....	5
活動報告 .....	5
若手研究会 .....	6
活動報告 .....	6
学友会.....	7
第 45 回研究発表会 若手研セッションでの発表報告 .....	7
専門研究会報告 .....	7
放射線安全パラダイム検討のための基盤整備専門研究会開催報告 .....	7
学会掲示板.....	8
「福島第一発電所事故対応シンポジウムⅣー事故発生から 1 年を振り返ってー」印象記.....	8
日本保健物理学会第 45 回研究発表会印象記.....	9

---

---

## 企画委員会報告

### 平成24年度第1回企画委員会 議事録

1. 日時：平成24年6月5日（火）13：30～17：00
2. 場所：日本原子力発電株式会社本店第8会議室
3. 出席：百瀬（委員長）、伴（副委員長）、谷口、林、飯塚、川浦、小嶋、南、山崎、遠藤（幹事）
4. 議題
  - (1) 平成23年度第4回企画委員会議事録確認
  - (2) 理事会報告
  - (3) 平成24年度企画行事の検討
  - (4) 平成24年度専門研究会の検討
  - (5) 広報の進め方について
  - (6) 若手研報告
  - (7) その他の活動状況
5. 議事
  - (1) 平成24年度企画行事の検討  
平成24年度の主な企画行事について検討した。主な企画案は以下のとおり。
    - ①UNSCEAR 関連のシンポジウム（又は勉強会）
    - ②ICRP Pub. 118 の内容の把握、その経緯、問題点など
    - ③一般対象の講演会・勉強会
    - ④学校の先生に対する教育
    - ⑤消防、警察、自衛隊など特定の業種を対象にした勉強会
    - ⑥WBC 測定技師、食品測定技師、リスクコミュニケーターなどの研修会（認定制度）
    - ⑦主任者試験対策（地方での開催）今後、提案された案件について検討する。
  - (2) 平成24年度専門研究会の検討  
「体外計測に関する標準計測法の策定に関する専門研究会」について主査が放射線医学総合研究所の栗原氏とすることが紹介された。
  - (3) 広報の進め方について  
今後の広報の進め方について説明があった。今年度、企画委員会で議論し、次年度に企画書として提案していくこととなった。
  - (4) 若手研報告  
現在、新しい体制の下で Q&A の未回答について対応中であること、出版についても作成中であることが紹介された。

（原子力機構 遠藤 邦明）

## 編集委員会報告

### 平成24年度第1回編集委員会 議事録

1. 日時：平成24年6月4日（月）13：30～17：30
2. 場所：電力中央研究所（東京・大手町）第5会議室
3. 出席：山口（恭）（委員長）、三枝（幹事）、山口（一）、石森、森泉、杉山、三上、古田、高田、松浦、反町、佐藤（以上、委員）、笠原（事務局）
4. 議題
  - (1) 前回議事録の確認
  - (2) 理事会報告
  - (3) NL（ニュースレター）の編集方針について
  - (4) 査読手順等の再確認
  - (5) 投稿の手引き等の見直しについて
  - (6) 編集委員の作業分担の確認
  - (7) 企画記事提案と J to W 及び巻頭言に係る確認

- 
- (8) 各パート進捗状況の確認
  - (9) 47-3 号以降編集進捗状況, 論文審査状況の確認
  - (10) その他
5. 配布資料
- 資料 1-1 平成 23 年度第 4 回編集委員会議事録 (案)
  - 資料 1-2 理事会報告
  - 資料 1-3-1 投稿の手引き (改定案)
  - 資料 1-3-2 Instruction to Authors
  - 資料 1-3-3 覚書 (改定案)
  - 資料 1-4 企画記事などの分担表
  - 資料 1-5 J to W 及び巻頭言のリスト
  - 資料 1-6-1 A パート進捗状況
  - 資料 1-6-2 B パート進捗状況
  - 資料 1-6-3 C パート進捗状況
  - 資料 1-7 47-2 号編集状況, 論文審査状況
  - 資料 1-8 編集スケジュール
  - 資料 1-9 座長への依頼文
  - 資料 1-10 44 回研究発表会からの論文投稿勧誘進捗状況
  - 資料 1-11 45 回研究発表会展示ポスター (案)
  - 資料 1-12 J-STAGE 対応について

6. 参考資料

- 参考 1 論文査読ガイドライン
- 参考 2 H24 年度編集委員名簿
- 参考 3 歴代編集委員
- 参考 4 投稿規則
- 参考 5 論文査読システムについて
- 参考 6 企画記事提案書式

7. 議事

(1) 前回議事録の確認

平成 23 年度第 4 回編集委員会の議事録 (案) が一部修正の上, 承認された。

(2) 理事会報告

山口委員長より, 第 3 回及び第 4 回理事会の報告がなされた。平成 23 年度の編集委員会では, 会合出席旅費の削減のため, 運営部会制を導入したが, 活発な編集活動を行うためには, 全委員の会合出席が必要であることが説明された。また, 平成 23 年度学会賞, 学会規則の見直し等について報告された。

(3) NL の編集方針について

今年度より NL の企画, 発行を編集委員会で行うこととなった。反町委員を主担当とすることとした。記事の構成, 原稿収集の方法等について主担当委員が素案を作成することとした。次回の発行予定を 7 月中旬とした。

(4) 査読手順等の再確認

記事, 論文の審査実施手順, 担当委員の責務や作業期日について, 再度確認した。審査状況は, 各パート幹事が常時確認すること, 進行が滞った場合はパート副幹事, 副担当委員が役割を代行することを確認した。

(5) 投稿の手引き等の見直しについて

投稿細則, 投稿の手引き等のうち, 改訂が必要な箇所を議論した。6 月末までにメールベースで議論を継続し, 見直しが必要な箇所をとりまとめた後, 47-3 号及び学会 HP に掲載することとした。

(6) 編集委員の作業分担の確認

三枝幹事より, 依頼記事, J to W, 巻頭言の企画, 校正と編集後記, 及び J-STAGE に関する分担について案が示され, 了承された。

(7) 企画記事提案と J to W 及び巻頭言に係る確認

47-4 号の巻頭言を IRPA 副会長の Coates 氏に依頼することとした。

(8) 各パート進捗状況の確認

企画記事, 論文審査の進行状況が各パート幹事より報告された。審査が大幅に遅れている記事があり, 早急に対応することとした。

(9) 46-3号編集進捗状況の確認、論文審査状況

編集事務局より、同号の編集状況、論文審査状況が報告され、確認した。

(10) その他

44回研究発表会からの論文投稿勧誘進捗状況を確認した。45回研究発表会においても論文投稿勧誘を行うこととし、森泉委員が各セッションの座長に執筆者候補の推薦を依頼することとした。

杉山委員より、電子ジャーナル(J-STAGE)の新システムへの移行状況等について概要の説明があった。電子ジャーナル上での論文掲載順序を再考することとした。

メールによる審議方法を検討することとした。

次の会合を、平成24年8月31日(金)13時30分から、東京・大手町で開催することとした。

(編集委員会幹事 原子力機構 三枝 純)

## 放射線防護標準化委員会報告

### 第11回放射線防護標準化委員会並びに第1回専門部会

1. 日時：平成24年3月30日(金)15:00~17:00

2. 場所：東京大学工学部12号館2階219会議室

東京大学大学院工学系研究科原子力専攻2階会議室(東海)

3. 出席：小佐古委員長、金子副委員長、山本副委員長、飯本幹事、服部幹事、山本幹事、近江幹事、鈴木幹事、三浦委員、白木委員、河田委員、工藤委員、齋藤委員、吉田委員、中村委員、岩井委員、山西委員、飯塚委員、中居委員、木村委員、林委員、山澤委員、清水委員、坂本委員

#### 4. 議事概要

##### 4.1 標準化委員会1

(1) 前回委員会議事録の確認及び幹事会活動報告

前回議事録が承認された。また、幹事会活動の報告が行われた。

(2) 平成24年度委員及び委員長選任

任期満了に伴い、平成24年度の委員の選任を行った。選任に先立ち、齋藤委員から、24年度委員の辞退が表明された。齋藤氏を除く委員候補全員が選任された。委員互選により、小佐古委員長が委員長として再選された。副委員長に金子委員、山本(英)委員、幹事に飯本委員、服部委員、近江委員、鈴木委員、山本(正)委員、岩井委員が指名された。(なお、その後、4月6日付けで杉浦委員が、幹事に指名された。)

##### 4.2 専門部会

(1) 委員並びに部会長の選任

「標準化活動が軌道に乗るまで、前年度に引き続き、標準化委員会の役員を委員にしたい。よって、先ほどの委員会で、指名した標準化委員会役員を専門部会の委員としたい」との部会長の提案があり、標準化委員会役員(小佐古、金子、山本(英)、山本(正)、服部、鈴木、飯本、近江、岩井)が専門部会委員として選任された。また、部会長として小佐古部会長が再選された。(なお、4月6日付けで杉浦委員が専門部会員として追加された。)

(2) 作業会の設立について

放射性廃棄物の管理に係るガイドライン検討作業会の設置について、山本(正)委員から、趣旨説明があった。

##### 4.3 標準化委員会2

(1) 専門部会委員の承認

専門部会で選任された新委員が満場一致で承認された。

(2) 今後の標準化委員会活動について

服部幹事から、電気協会放射線管理分科会の平成24年度活動案の紹介がなされた。分野によっては、電気協会と連帯して活動することが、述べられた。また、24年度の活動(含む24年度予算)について、大まかな方針が、委員長から説明された。

### 第36回幹事会

1. 日時：平成24年5月30日(水)17:30~19:30

2. 場所：東京大学原子力別館3F会議室

3. 出席：小佐古(委員長)、金子(副委員長)、飯本、服部、山本、鈴木、杉浦、近江、岩井(幹事)、今津(事務局)

#### 4. 議事概要

(1) 標準の策定計画について

今年度検討が予定されている以下の標準について、検討方針や推進体制の討議を行った。

- ①内部被ばく手法の標準化 (WBC、バイオアッセイ、ヨウ素摂取量簡易測定等)
- ②現存被ばく状況における放射性廃棄物の管理(廃棄物の仮置き、処理、貯蔵、埋設処分等)
- ③ICRP2007年勧告(妊娠した期間の胎児・胚の追加線量の管理方法、放射線業務従事者の特殊健康診断の要否判定方法、放射線作業従事者の内部被ばくに関するレベル(調査レベル、記録レベル)関連措置)
- ④放射線防護のマネジメントシステム
- ⑤加速器施設に係るRIクリアランスのガイドライン

(2) 標準策定の決議への直接の利害関係者の参加について

委員会等で、標準に関する決議にあたり、直接の利害関係者を特定し、関係者は決議できないシステム導入を目指して試行後の運用開始を目指す。具体的には、決議前に、利害関係に当たるか否かの調査票を配布し、自己申告をする。その調査票を委員全員で回覧し、利害関係者であることの確認をし、決議には参加しないようにする。調査票は飯本幹事が作成し、次回の幹事会に諮る。

### 第37回幹事会

1. 日時：平成24年7月17日(水) 18:00~20:30

2. 場所：東京大学原子力別館3F会議室

3. 出席：小佐古(委員長)、金子、山本(英)(副委員長)、飯本、服部、山本(正)、鈴木、杉浦、近江、岩井(幹事)、今津(事務局)

4. 議事概要

(1) 標準化作業の進捗状況について

「線源と廃棄物」、「職業人の公衆の安全」、「加速器のガイドライン」の標準化作業の進捗状況について、山本(正)主査、服部主査、飯本幹事から、説明がなされた。いずれの作業も、準備段階にあり、正式な作業会の発足は、さらなる検討を重ねた後とした。

(2) 標準策定の決議への直接の利害関係者の参加について

放射線防護標準化委員会の活動の中立性を保つための方策について議論した。その結果、標準化委員会の委員候補者の履歴書に、「委員就任後においては、本委員会における活動において、日本保健物理学会放射線防護標準化委員会の活動の中立性を確保するために、特定の組織、集団への利益を優先することなく、科学的知見に基づき、専門家個人として誠実に対応することを誓います。」の文言を入れることで対応することになった。また、標準の採択を決議する時、明らかな利害関係者は、採決に加わらないこととした。

(3) 重要な概念の出版の進捗状況について

重要な概念は、小佐古委員長と、事務局(今津)とで後2回打ち合わせを行った後、金子・山本副委員長が最終チェックを行う。

(東京大 飯本 武志)

## 広報担当からの報告

### 活動報告

「暮らしの放射線Q&A」の冊子化の活動状況について

学会HP上の「暮らしの放射線Q&A」のQ&Aを厳選し出版するための作業を、下先生、早川先生を中心とする相談役及び若手研究会、学友会メンバー等で構成する「暮らしの放射線Q&A活動委員会」で現在精力的に行っています。以前のニュースレターでも状況をお知らせしてきましたが、作業は、いよいよ最終段階に入っています。当初、「一般の方々に広く手に取っていただけるように読みやすい本」とすること目標としましたが、出版社と活動委員会で活発な意見交換を(主にメールベースですが)何度も何度も行い、単なる「読み本」ではなく、学会の名に恥じない内容の充実したしっかりした本にしようということで、当初は150ページ、1000円程度を想定していましたが、400ページ前後、2500円程度のものになりそうです。ちょっと"重い"という意見もありますが、活動委員会の集大成でもあり、出版社、活動委員会一体となりみんな寝食忘れて(!?)活動した結果、一次のゲラも完成、出版まであと一息のところまで来ました。発売開始は、11月下旬を予定しています。出版に際しては、学会員のみならずにはご購入をお願いしたいですが、是非、みなさまのまわりの方々にも広く勧誘いただきたくお願いします。

出版後のHP「暮らしの放射線Q&A」活動の有り方については、広報が中心となってこれから検討していかねばならない大きな課題だと考えています。「すべての質問に答える」を活動委員会の方針としてきましたが、その思いだけでは長期間にわたる継続は困難であることを、活動委員会は今までの経験を通して身に沁みています。HP「暮ら

---

「暮らしの放射線Q&A」活動は、学会として社会性を示す非常に有効な手段と考えますが、現実的なシステムを作ら無い限り、持続は困難です。今後、Web上の「会員専用意見交換の場」などを活用して学会員みなさまのご意見もお聞きしようと考えていますので、ご協力をお願いします。

(日本原子力発電(株) 谷口 和史)

## 若手研究会

### 活動報告

昨年度は、福島第一発電所事故対応シンポジウムへの若手有志としての参加、『暮らしの放射線 Q&A』活動、第5回日本保健物理学会学生発表会への協力、第12回若手勉強会の企画、平成23年度若手セミナーの開催等、活動を継続して進めてきました。平成24年度も精一杯活動を続けていきたいと思っておりますので、若手研究会(若手研)のイベント等の際には是非ご参加ください。

また、平成19年から保健物理誌で連載がはじまった「若手研究会のページ」が平成23年の第46巻4号をもって打ち切りとなりました。5年間でしたが、若手研で内容を企画して原稿を依頼・執筆する。そして、編集も行うということで非常に良い機会をいただけたと思っています。今後は、この「NEWSLETTER」で若手研究会(若手研)の情報を公開していきたいと思っております。「NEWSLETTER」の若手研の活動方針を決めたところで、若手研の皆様にも原稿執筆をお願いしていきたいと考えております。その時はご協力をお願い致します。

### 1. 若手研スケジュール

- (1) これまでの活動(平成23年2月以降)
  - (3/3) 平成23年度若手研セミナー(東京)
  - (3/28) 平成23年度第5回主査・幹事会(水戸)
  - (3/4) 福島第一発電所事故対応シンポジウムIV(東京)
  - (5/14-18) IRPA13 ポスター発表(英国)
  - (6/16-17) 日本保健物理学会第45回研究発表会  
ポスター&若手研セッション発表(名古屋)
- (2) 今後の予定
  - (9/29) 平成24年度第1回主査・幹事会(東京)
  - (10/6-7) 千葉県科学フェスタ2012 ブース展示(千葉)
  - (10月) 平成24年度第2回主査・幹事会
  - (11月) OECD/NEA 会合
  - (12月) 学生発表会若手研セッション

### 2. 若手研 Now

#### 2-1 「千葉県科学フェスタ2012」での科学体験ブース出展

「千葉県科学フェスタ2012」が、2012年10月6日(土)・7日(日)に、千葉市のQiball(きぼーる)で開催されます。昨年に引き続き、若手研究会と学友会が協力して以下の科学体験ブースを企画しました。奮って、ご参加ください。

#### 【概要】「放射線(ほうしゃせん)について考えてみよう！」

福島第一原子力発電所事故に伴って大量の放射線物質が環境中に放出されたことで、食料や飲料水など、身の回りの消費財中にも人工の放射線物質が含まれるというこれまでにない状況を経験しました。原子力・放射線利用に関わる学術団体である日本保健物理学会の若手研究会・学友会としては、このような状況の中で、社会的な関心が非常に高い「放射線」について、より多くの方が正しく理解し、正確な情報に基づいて行動することが今後も重要であると考えます。そこで、このブースでは幅広い年齢層の方を対象に、①一般消費財中の放射線計測、②身体除染デモ、③放射線に関するクイズ等、放射線に関する正しい知識を身につけるための企画を実施します。

#### 2-2 「専門家が答える暮らしの放射線Q&A」サイトへの協力

皆様からいただいた全ての質問に対してお答えしたいとの理由から、2012年3月30日(金)17:00より5月上旬までの期限を付けて、質問の受付を一時停止させていただいておりましたが、2012年6月12日(火)17:00より、質問受付を再開しましたのでお時間があるときにぜひご覧ください。

### 3. 若手研掲示板

- 若手研では会員を随時募集しております。35歳以下の学会員であれば、どなたでも入会資格がありますので、主査・幹事まで(E-mail: [jhps.wakate@gmail.com](mailto:jhps.wakate@gmail.com)) お気軽にご連絡ください。(Y.K.)

➤ 「NEWSLETTER」への記事及び情報提供もよろしくお願いたします。(Y.K.)

(若手研究会主査 明治大 小池 裕也)

## 学友会

### 第45回研究発表会 若手研セッションでの発表報告

平成24年6月16～17日に、名古屋大学東山キャンパスで第45回日本保健物理学会第45回研究発表会が開催されました。2日目の若手研セッション内で、暮らしの放射線Q&A活動を通じての経験、その経験から今後の日本保健物理学会が果たすべき役割に対する考えを学友会の立場から発表しました。発表後のパネルディスカッションでは、肩書(学生など)によらず、一つ一つの質問に対して根拠を示し、熱心に回答することが重要であることを再認識することが出来ました。今回の発表を経て、今後も暮らしの放射線Q&Aに質問を寄せてくる質問者の方の意思を汲み、真摯な態度で回答に取り組みたいと思います。

現在、2012年12月に名古屋大学で開催予定の第6回日本保健物理学会学生発表会に向けて準備を進めています。今年も学生の研究発表のみならず、企業プレゼンテーション、若手研との共同セッションなどを予定しております。また、都合により学生発表会に参加できない学生からのポスター展示(研究発表、研究室紹介)などを予定しております。今後も学友会では学生同士のつながり、また若手研とのつながりを深めながら、保健物理学会の発展に貢献したいと考えています。



若手研セッションでの発表の様子

(学友会会長 名古屋大 廣内 淳)

## 専門研究会報告

### 放射線安全パラダイム検討のための基盤整備専門研究会開催報告

平成24年2月17日(金)、東京大学工学部12号館において、平成23年度の第1回目となる放射線安全パラダイム検討のための基盤整備専門研究会が開催された。同会では、東海村とテレビ会議中継も行われた。平成23年度は福島第一発電所事故の影響もあり、専門研究会としての活動を十分に実施することができなかったが、国内外の放射線防護に係る最新の動向を共有することは重要であるため、今回は、非ガン影響に関する議論の動向、米国における国際放射線防護委員会勧告の取入れ検討状況、NHK問題ー低線量被ばくと揺らぐ国際基準ーを取り上げ、専門研究会メンバー内で意見交換が行われた。

まず、原子力エンジニアリングの宮崎氏から、「非ガン影響に関する議論の動向」と題し、放射線防護体系における非ガン議論経緯、非ガンの発生・進展機構が紹介された。その中では、欧州主導(一部のICRP委員)で非ガン影響の議論が進んでおり、疫学からリスクや機構に関する議論に発展しているものの、議論の成熟度は低く、関心も低いことが指摘された。また、医療分野での被ばくが問題視されており、実際には放射線防護体系全体を動かす大きな動き(放射線防護三原則を変える)になっているため、今後も動向に注視していく必要があることが強調された。

次に、報告者より、「米国原子力規制委員会におけるICRP2007年勧告取入れの動向」と題し、現在の米国の放射線

防護規制文書は1977年勧告が主なベースとなっているが、現在、公衆と作業者の線量限度などが示された10CFR20を中心に、ステークホルダーを交えた2007年勧告の取入れに向けた検討が進められていることを紹介した。また、平成24年2月に開催された米国保健物理学会の参加報告を行い、「The Name of Our Society, Is It Finally Time to Consider Changing It?」と題する特別セッションでは、日本保健物理学会でも同様の議論があったように、米国においても保健物理(Health Physics)ではなく、放射線防護(Radiation Protection)という名前に変えた方が良いという声が大きく、国際放射線防護学会(IRPA)に加盟している学会の中でも、日本、ハンガリー、米国の三ヶ国のみが保健物理という名称を維持していることを紹介した。

最後に、平成23年12月28日に日本放送協会が放映した番組「低線量被ばく揺らぐ国際基準」の上映を行い、報道内容の事実確認や、専門研究会メンバーが同番組を視聴した印象等について議論した。

(専門研究会幹事 電中研 荻野 晴之)

## 学会掲示板

### 「福島第一発電所事故対応シンポジウムⅣ—事故発生から1年を振り返って—」印象記

平成24年3月4日(日)13:00から学会主催により、東京大学本郷キャンパス理学部1号館小柴ホールにおいて標記のシンポジウムが開催された。今回は第4回目で福島第一発電所の事故対応について今までの総括とこれからの本学会の提言について、「基調講演」、「特別講演」、「パネルディスカッション」の3部構成の内容で開催されたものである。当日は学会員、報道関係の方も含め72名の参加があった。

冒頭、企画委員長百瀬琢磨氏の挨拶では、本日の各講演についての概要と実りあるシンポジウムにしたい旨が述べられた。

第1部基調講演は、座長をJAEA石田順一郎氏が務め、この一年を振り返ることは大変意義であると述べられ、続いて、総括と海外の反応について日本保健物理学会会長小佐古敏荘氏から一年間の総括そして前を向いてこれから何をすべきなのかについての発表があった。東日本大震災の規模や福島第一原子力発電所事故の概要から放射性物質の放出に伴う放射能汚染の拡散について、SPEEDI、オフサイトセンターの問題点の指摘や海外の反応などを具体的にお話し頂いた。当学会が中心となって事故の検証をしていきたいと述べられた。

第2部特別講演は、座長を放射線医学総合研究所杉浦紳之氏が務めた。まず、放射線防護についての報道と合理的防護基準の策定について京都大学名誉教授丹羽太貫先生に講演をして頂いた。緊急時から現存時に向けての防護のあり方。食品の新放射能基準値とその問題。なぜ新安全基準が定められてしまったのか。など現在抱える諸問題について言及された。続いて除染活動における放射線防護について除染電離則の内容、除染等業務に従事する労働者の放射線障害防止についてのガイドラインについて、JAEA放射線管理部長の古田定昭氏からご講演頂いた。この除染電離則の実効性や改善点、20km圏内における除染作業以外の作業の管理や被ばくの集計やデータの一元化についての課題が述べられ、復興の鍵となる内容であった。

第3部は、座長を東京医療保健大学の伴信彦氏が務められた。パネルディスカッション形式で保健物理学会の果たすべき役割を考えると進められた。学会副会長の服部隆利氏は、「保健物理学会の対応と提言について」と国際対応委員会からとして「海外への情報発信と連携に向けて」について述べられた。Q&A活動委員会の河野恭彦氏は、「暮らしのQ&A活動から見えた課題と対応」、若手研究会の小池裕也氏は、「新たな取り組みへの抱負」、標準化委員会の山本正史氏は、「標準化に係る課題と対応」、企画委員会百瀬琢磨氏は、「専門的課題と人材育成への取り組み」についてそれぞれ事故後行った具体的な活動内容や提言について述べられた。根拠をはっきりとする科学的な対応が、事故対応に非常に大切であることを再認識した。その後の総合討論では、最初に小佐古学会長より現存する被ばく状況についての説明と現地に力点を置いた対応をしなければいけないことが述べられた。低線量の影響や基準について会場から意見が出され、伴信彦氏は、影響の観点から100mSv以下では、放射線影響は検出できないほど小さいが防護対策を考えるのが現状であることの説明や、基準値が安全と危険の境界でないことを社会が共有できるような方向にもっていくべきであると述べられた。食品の新基準値が不安を解消するための基準値になっていて生活リスクとのバランスが取れていないことや放射線の専門家が食品安全委員会など他の分野と一緒にやっていくべきであるとの意見や、低線量の影響に関するリスクコミュニケーションの問題など、今後の課題について活発な議論がなされた。最後に服部副会長から対応と提言については、本シンポジウムの意見も含めて、当学会のホームページを通じた意見募集を行い、最終化していくことが述べられた。

事故後できたこととできなかったことを精査することや、福島第一発電所事故対応は息の長い取り組みになるため、今後も先輩方から学びながら、若手や中堅が高い意識を保ち、課題に取り組んでいくことが重要であると今回のシンポジウムで感じた。





写真：シンポジウム会場の様子

(埼玉医科大 飯塚 裕幸)

### 日本保健物理学会第45回研究発表会印象記

平成24年6月16日(土)、17日(日)、名古屋大学東山キャンパスにて第45回研究発表会が開催された。口頭発表は、環境放射(線)能、放射線計測、線量評価、防災・緊急時対応、教育とリスクコミュニケーション、放射線影響、医療被ばく、放射性廃棄物、ラドンの9セッションに分けられた。加えて、ポスター発表、および福島第一原子力発電所事故に関連した3つのシンポジウム(うち1つは市民公開)が行われた。本稿では、個人的に印象的であった発表等のいくつかを紹介したい。

1日目の放射線計測1、及びポスター発表にて、蛍光プラスチックの開発に関する発表があった。身近なペットボトル樹脂に放射線検出器としての性能を見出した研究で、今後は検出器への実用化が期待されている。環境放射線(能)3では、福島県等の走行サーベイに関する発表が複数あり、 $^{134}\text{Cs}/^{137}\text{Cs}$  存在比や線量比などの観点から報告がなされていた。このようなデータは、被ばく線量評価や放射性物質量の経時変化の追跡等に向けて、今後も活用が期待されるため、引き続き関連調査報告に注視していきたい。

2日目には、市民公開シンポジウム「放射能汚染と食の安全」が開催された。一般の方々も多数参加されているようで、放射線に対する関心の高さがうかがわれた。まず、放射線安全、市民活動のケース報告、内部被ばく検査、天然の放射性物質、線量換算係数について話題提供された後、総合討論がなされた。議論が進むにつれ、内容が総論から各論になっていくことがあった。これを受けて、最後に座長から「今後はテーマを絞っての議論が必要だろうが、専門家も結論ありきではなくて対話形式で議論を深めることが重要である」とまとめられた。医療被ばく1では、焦電結晶によるX線源の開発に関する発表があった。医療応用に向けての課題は残されているようだが、外部高電圧が不要という利点を考えると、魅力的な線源となると期待される。ラドンのセッションは、例年の盛り上がりは感じられなかったが、様々なテーマで研究が進められていた。同じ研究対象を持つ私にとっては、有意義な時間であった。

今回の研究発表の約半数は福島第一原子力発電所事故に関連したテーマであり、本学会の担う役割の重要性を改めて感じた。市民公開シンポジウムにおける一般の方の関心の高さ等からも、放射線の専門家が集まる保物学会には、今後も継続した諸活動が求められると思う。そのひとつに若手研究会セッションでもあった「暮らしの放射線 Q&A」があるが、私も本 Q&A 活動を通じて微力ながら貢献していきたいと思う。

(原子力機構 迫田 晃弘)

発行・編集：(一社)日本保健物理学会編集委員会

担当：反町 篤行(弘前大)、川辺 睦(岡山大)